

熊本県立岱志高等学校 全日制課程 令和元年度学校評価計画表

A：十分達成できている B：概ね達成できている C：やや不十分である D：不十分である

1 学校教育目標
1 夢（志）を描き、夢の実現への挑戦……志を育み、励まし、鍛え、伸ばす 2 心の教育の充実……自己肯定の心と命を大切にする心、郷土を愛する心の育成 3 確かな学力の育成……基礎・基本の確実な定着。個に応じた指導の充実 4 生徒指導の充実……基本的生活習慣の確立及び自律心の育成

2 本年度の重点目標
(1) 特色ある学校づくりを推進する。 (2) 学力の向上と進路保障の取組を強化する。 (3) 健全な心身を育成する。 (4) 安心・安全な学校を維持する。 (5) 地域社会に期待に応え、活力ある学校づくりに努める。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価 A～D	成果・課題等
大項目	小項目					
学校 経営	学校の活性化	○本年度の重点目標を意識した教育活動の積極的実践	○分掌部や学年間の連携と運営委員会の活性化	○運営委員会における定期的な学校評価目標の進捗状況の報告と検証の実施	C	○運営委員会において、各教育活動と学校評価目標との関連付けを明確にすることができなかった。 校務改善に取りかかることはできた。
		○生徒理解と合理的配慮の充実	○教育環境のUD化推進 ○中途退学者・長欠者数の減（前年度比）	○教室のUD化推進（掲示物、板書等の工夫実践） ○個々の生徒に応じた学習指導及び生徒指導の充実		C

	学校PRと情報発信	<p>○地域、中学校、保護者への情報発信</p>	<p>○前期定員の充足 ○受検者数 100名以上</p>	<p>○HPの即時更新 ○管内中学校への訪問（年3回）とアンケート実施</p>	B	<p>○HPについて、迅速な更新ができた。アカウント数もかなり増加した。現在、リニューアルに取り組んでいる。</p> <p>○前期（特色）選抜の受検生は、昨年よりも増加したが、数値目標には及ばなかった。校長が中心となって中学校訪問を実施し、訪問数はかなり増加した。</p>
		<p>○開かれた岱志高校の実現</p>	<p>○本校の特色を生かした学校づくり ○地域への公開授業の実施</p>	<p>○荒尾市の支援事業を活用した学校づくり ○地域や管内中学校への公開授業の案内</p>	C	<p>○荒尾市との協議を継続することはできたが、今後の方針を検討するに留まった。</p> <p>○公開授業の外部への周知を図ったが、参観者は少なかった。</p>
	安全・安心な学校づくり	<p>○災害発生時における安全確保</p> <p>○事前の危機管理の徹底</p>	<p>○年2回の防災避難訓練実施（事前学習含む） ○荒尾市総合防災訓練への参加 ○日常と定期的による安全点検の実施</p>	<p>○防災避難訓練の実施とその事後評価に伴う防災マニュアルの見直し・改善</p> <p>○事務部と連携し、施設・設備を点検・改善</p>	B	<p>○防災避難訓練及び安全点検は計画通り実施できた。今後、マニュアルの見直し・改善をおこなう。</p> <p>○点検はできているが、点検の目的が周知されていない。</p>
学力向上	授業を主体とした学力向上の取組	<p>○3年間を見通した計画的な授業の実践</p>	<p>○シラバスに基づいた授業時数の確保</p>	<p>○教科ごとのシラバスの作成と効果的な活用</p>	C	<p>○授業時間数の把握が十分にできず、行事の調整が上手くできなかった。</p>
		<p>○分かる・できる授業の工夫・改善</p>	<p>○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善（授業評価の活用） ○全教科研究授業の実施</p>	<p>○授業評価による実態把握（7月、12月）</p> <p>○教育センター指導主事やスーパーティーチャーを招いた研修の実施 ○教務部企画による研究授業の推進（研究授業強化月間を通じての授業の工夫改善）</p>	B	<p>○授業評価の結果が十分にフィードバックされていない。</p> <p>○研究授業は全教科で実施し、教育センターの協力も得ることができた。</p>
	自学力の醸成	<p>○生徒自ら学ぶ姿勢の確立及び学び力の向上</p>	<p>○定期考査前1週間の家庭学習時間平均 150分以上</p>	<p>○定期考査前1週間と考査期間中の家庭学習時間調査の実施と分析</p>	D	<p>○家庭学習時間が定着していない。家庭学習の意義についての指導が十分でなかった。</p>

		○目標に向かって地道に努力を積み重ねる生徒の育成	○学力が厳しい生徒への基礎的・基本的な内容の定着	○夕学習会の充実 ○数学での習熟度別指導の実施	C	○一般コースは学習環境、意欲、内容等で課題が多かった。 ○考査前には個別指導も行ったが、結果に反映されていない。
キャリア教育 (進路指導)	進路意識の高揚	○自己理解と職業理解	○オープンキャンパスや企業見学へ学年で1回以上参加し、学ぶこと・働くことの意義や役割の理解推進	○インターンシップ、企業見学、進路の日（校内の進路学習）、保護者ガイダンス、校外ガイダンス、オープンキャンパス、ポートフォリオ等	B	○各学年とも、適切な時期に指導計画を立て、自己理解と職業理解を深める取組ができた。生徒の取組も概ね良好であった。
		○主体的な進路選択	○進路目標の明確化（暫定値） 1学年：60% 2学年：80%	○進路の日（校内進路学習）の充実、進路のしおりの活用、三者面談、進路志望調査、希望者対象職業人講話	B	○職業人講話は6回合計73名の参加があった。進路目標決定者は1学年39%、2学年82%（12月時点）
	基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成	○基礎学力の定着	○基礎力診断テスト第1回テストから第2回テストへのGTZ上昇 ○学習会発展コース参加者の家庭学習の充実	○基礎力診断テストの実施、事前学習教材の活用、分析会の実施 ○夕学習会の充実 ○デジタル教材配信による学習支援	C	○基礎力診断テストと事前事後の授業との関連付けができていなかった。 ○発展コースの課題配信は家庭での取組が定着せず、定期的に学校で指導した。
		○自己理解の定着と個に応じた学習指導	○面接・小論文及び志望理由書の書き方等の研修実施、小論文模試の実施	○面接・小論文及び理由書の書き方等の研修実施	C	○1・2学年は、年間計画通り実施できた。3年の個別指導が計画的に実施できなかった。
生徒指導	生活指導の充実	○「岱志五原則」に則った基本的な生活習慣の習得	○年8回の頭髪・服装指導と毎朝の登校指導の実施による違反者・遅刻者等の減少	○中高連絡会の実施 ○服装頭髪検査事後指導の一元化と徹底 ○登校指導、あいさつ運動の実施、遅刻者の正確な把握と事後指導の徹底	C	○遅刻・服装指導とも徹底した指導ができなかった。
		○問題行動の未然防止と発生後の対応	○日常の指導の機会、講演会等による規範意識の涵養 ○問題発生後の速やかな実態把握、指導方針の明確化と育成的な指導	○登校指導、あいさつ運動の実施、遅刻者の正確な把握と事後指導の徹底 ○貴重品管理の随時指導及び移動教室の際の施錠徹底 ○関係各所等の積極的な巡回	C	○ことあるごとに全校生徒に対して啓発をしたが、指導が後手になり、指導が徹底できなかった。 ○盗難等は起きていないが、貴重品管理及び教室施錠が疎かになる事もあった。 ○巡回は行ったが、一部の職員に限定された。
		○交通マナー及び危険予知能力	○交通事故件数の減少	○登下校指導の徹底		○大きな事故はなかったが、外部からの

	交通安全教育の充実	の育成		<ul style="list-style-type: none"> ○交通講話の計画・実施 ○荒尾警察署との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○苦情が多かった。生徒への事前の啓発が足りなかった ○警察署との連携は概ね図ることができた。
			○二重ロック率の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○自転車ステッカー一点検 ○鍵かけ運動の実施 	C	○ステッカーの貼り付け、鍵かけも徹底できなかった。
			○原付通学生の違反や事故防止の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ○年2回の原付実技講習の実施 ○原付通学生登校指導の実施 	C	○実技講習が1回しかできなかった。
生徒会、委員会活動の活性化	○部活動の充実	○部活動加入率90%	○学期ごとに部活加入を推進する機会の設定	C	○加入率が低く、学期ごとの加入推進もできなかった。	
	○生徒会活動の活性化	○生徒を主体とした学校行事の運営	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会・ボランティア部、学年による広報・啓発 ○生徒会・各部長を対象としたリーダー研修の実施 	C	○生徒が積極的に活動するための啓発ができなかった。	
保護者、地域、関係諸機関との連携	○PTA、各種、関係機関等との情報交換による問題行動の未然防止	○保護者や地域からの情報を即座に収集する組織づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○幹事会、若草会に毎回出席し本校生徒の現状や地域の現状を把握 ○PTA役員会等における情報収集 	B	○地域の現状は把握することができたが、PTAとの連携は不十分だった。	
人権教育の推進	研修の充実及び系統立てた人権教育の実践	○校内外の研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○校内での研修実施 ○外部機関の研修参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○全職員年1回以上校外研修への参加 ○校内での人権レポート研修の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○校外研修は、ほぼ全職員が参加できた。 ○校内レポート研修では、例年より多くの質疑や感想があり、充実した。
		○系統立てた特設授業の実施	○3年間を通して部落差別問題について理解を深める	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年で人権LHRを実施 ○荒尾市授業研究会での授業実践 	B	○今年は荒尾市授業研究会が本校での開催だったので、人権LHRを全クラス公開し、荒尾市内の小・中・高・特別支援学校から多くの参加者があった。特に3年生が行った結婚差別を題材とした寸劇の授業はとても好評だった。
	命を大切に する心を 育む指導 の実践	○人権擁護に関する意欲・態度の涵養	○人権尊重の意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ○「平和と人権の集い」の実施 ○人権に関する講演会の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○8月5日に「平和と人権の集い」を行い、全校でLGBTの問題について考えた。 ○「心と命」の取組や人権講話によっ

		○生命の大切さを理解し、自他の生命を尊重する生徒の育成	○「命を大切に する心」を育む 指導の実践	○毎月18日を「 心と命の日」とし て命の大切さにつ いて考える時間を 設ける。	A	て、生徒たちの言動も少しずつだが、穏やかで、思いやりのあるものになってきた。 ○「命について考える」講演会を2回実施した。また毎月欠かさず「心と命」の取組で、命の大切さについて伝える資料を作成することができた。
いじめの防止等	いじめの未然防止（重大事態の再発防止）	○いじめの未然防止	○「いじめの未然防止指針」の策定 ○各マニュアルの見直し	○全職員の意見を取り入れた指針の策定と遵守 ○各マニュアルの改訂又は策定	B	○指針の徹底までは至っていない。 ○「岱志高校全日制いじめ防止基本方針」及び「いじめが背景に疑われる重大事態への対応マニュアル」を改訂し、「いじめ問題への対応マニュアル」を策定した。
	いじめの防止及び健全・良好な人間関係の構築	○いじめを防止するための組織的な取組	○いじめを防止するための情報交換 ○いじめが発生したとき迅速な対応	○担任だけではなく、全職員で生徒の普段の学校生活を観察 ○中高連絡会の開催 ○いじめ防止対策委員会を各学期に実施	C	○連絡会やいじめ防止対策委員会において状況把握を行ったが、職員が見えていない・気づかない所でのトラブルもあっていると考えている。アンテナを高くしておく必要がある。また警察等との連携が不可欠である。
		○いじめを起さない環境づくり	○言語環境の整備 ○教育相談、道徳教育及び体験活動の充実による互いを認め合う関係の構築	○授業等における適切な言語の使用 ○「心のアンケート」を学期ごとに実施 ○担任面談の充実 ○1年生1学期にコミュニケーションプログラムLHRの実施	C	○言語環境の啓発が足りず、生徒の不適切な発言等があった。職員は今後も正しい言葉遣いを続ける。 ○学期ごとに「心のアンケート」を実施することができたが、その結果の分析まで至っていない。 ○担任と生徒との関係づくりにおいて、普段の生活での面談が有効と考えるが、その意識が持っていない。

特別支援教育	特別支援教育指導力の向上	○合理的配慮に関する職員の意識向上	○障がいや特性に対する理解の深化	○合理的配慮事例集の配布 ○特別支援に関する研修の実施 ○生徒理解研修の実施 ○ケース会議の実施 ○関係機関等（SC・SSW・医療機関・児相）との連携	C	○「具体的方策」については、生徒支援部を中心に、生徒指導部と連携しながら取り組んだ。 基礎的な環境整備や合理的配慮に関する職員の意識向上についてはさらに取り組む。
		○個に応じた支援計画の実践	○配慮が必要な生徒を把握し、個別の教育支援計画・指導計画を作成 ○教室に入ることができない生徒の学習保障	○生徒支援部会で生徒情報の共有・対応を検討し、各学年や運営委員会でも情報を共有 ○巡回相談員と連携し、ケース会議を実施 ○個別の教育支援計画や指導計画を複数職員で作成 ○二次障がいに関する理解促進 ○校内委員会や生徒理し、教室復帰を目指して支援をするために、学習の場を保障	B	○生徒の実態把握と情報共有、関係機関と連携したケース会議や別室の運用などは重点的に取り組むことが出来た。 個に応じた支援は学年の職員を中心に取り組むことが出来たが、支援計画については100%作成することができなかった。
	通級制度の確立	○個に応じた自立活動の授業実践	○自立活動理解の啓発 ○自立活動の授業スキルの向上	OPTA総会、全校集会、中学校体験入学、職員研修等で通級制度について説明 ○通級での活動について職員にアナウンス ○巡回相談員と連携授業計画を作成、助言を受けて授業改善	C	○今年度上半期に通級規程を作成し、準備を行い、11月からスタートすることが出来た。 自立活動理解の啓発が不十分で、全職員の授業参観とスキルの取得が今後の目標である。
	防災型コミュニティ・スクールによる地域との連携	○地域における防災拠点づくり（受援対応施設）	○災害時における地域との連携協力体制の構築	○学校運営協議会の実施（年3回） ○荒尾市総合防災訓練へ係職員の参加（11月）	A	○防災避難訓練及び安全点検は計画通り実施した。 今後、マニュアルの見直し・改善をおこなう。
	荒尾市との共働による地域と学校の活性化	○地域イベント参加による市への貢献	○荒炎祭や市政フォーラムへの積極的参加	○生徒会を中心とし生徒が主体となる取組の実施	B	○「地域未来づくり会議」や「男女共同参画フォーラム」に参加することができた。 生徒数が減少し、地域行事等への参加人数が年々減少している。
		○学校の特性を生かしたティアップ行事の実現	○「岱志塾」や「タグラグビー教室」の実施充実	○岱志塾の開催	A	○7月に岱志塾を開催し、理科部・美工コースの生徒による

						充実した活動を行うことができた。 7月・12月にラグビー教室を開き地域に貢献することができた。
環境教育	美化活動の充実	○生徒主体の環境美化 ○全校での環境教育推進活動の実践	○環境美化委員による校内美化評価と全生徒・職員での環境美化推進 ○校内と校外で清掃活動を実施(学期1回)	○月に2回、生徒による美化評価を実施し、日常の環境美化を促進 ○校外清掃活動については荒尾市と連携しながら実施	B	○関係団体と連携して実施した。 ○校外清掃活動はできたが、市との連携までには至らなかった。
	地球環境保全活動の推進	○学校版環境ISOの取組の充実	○省エネ・リサイクル活動の全生徒・全職員による取り組み推進 ○資源の有効活用	○電気・水道使用量を前年度と比較、「エコ伝言板」で広報 ○裏紙の利用推進 ○環境問題校外研修実施(2学年)	C	○学期1回ずつのエコ伝言板掲示となった。 ○職員の裏紙利用は促進された。 ○校外研修未実施。今後も実施しない。

4 学校関係者評価
<p>○今後も、校長を中心に「選んでもらえる」学校づくりに励んでほしい。</p> <p>○HPの充実が図られたのは評価できる。アクセス数がかかなり多くなったとのことなので、うまく活用する方法を検討してもらいたい。</p> <p>○玉名・大牟田にも多くの公・私立高校があるなか、普通科のメリットや魅力が感じられない。例えば特進コースや公務員コースをつくるなど、思い切った学科改編も必要である。</p> <p>○荒尾市が行ったアンケートでは、保護者が岱志高校に進学させたい理由として①自宅から近い ②地元の高校に通わせたい、との回答が多かった。荒尾市にいい学校があれば通わせたいというのが多くの保護者の意見である。</p>

5 総合評価
<p>○学校経営</p> <p>HPの迅速な更新や広報誌の作成、校外での看板設置、荒尾市広報への記事掲載など情報発信は充実した。また、校長が中心となって中学校訪問を行い、訪問数が増えるとともに、中学校との信頼関係を築くことができた。しかし、目標とした「前期(特色)選抜定員の充足」では体育コースで達成できず、「後期(一般)選抜受検者数100名以上」にも及ばなかった。</p>
<p>【学校評価アンケート】※%は「よくあてはまる+あてはまる」の数値</p> <p>職員：「学校の良い所や生徒のがんばりを保護者や地域に伝えている」75.8%</p> <p>生徒：「学校外で、学校や生徒のがんばりやよい評判を聞くことがある」33.6%</p> <p>保護者：「学校の良い所や生徒のがんばりが保護者や地域に伝わっている」54.0%</p>
<p>→情報発信は確かにしているが伝わっているのか。対象や方法を検討し、効果的な広報活動を行う必要がある。</p>
<p>○学力向上</p> <p>「授業を主体とした学力向上の取組」は一定の成果があった。研究授業強化月間を設定し、全教科で研究授業を行うことができた。また、参観者も多かった。教育センターの指導主事を招いた研究授業では、教科等横断型の授業実践を行い、その後の研究会も充実することができた。主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善の取組を継続していく。</p>
<p>【学校評価アンケート】</p> <p>職員：「私は生徒が積極的に参加する授業を行っている」83.3%</p> <p>生徒：「先生方の授業は分かりやすい」64.8%</p> <p>保護者：「子どもは、授業を楽しく受けている」72.8%</p>

→授業の工夫を積極的に行っている職員は多い。しかし、一人一人の進路希望や能力等にきめ細かく対応できる授業が求められる。

「自学力の醸成」については定期考査前1週間の家庭学習時間平均150分を目標としたが、2学期中間考査前が平均61分、2学期期末考査前が平均73分と目標の半分にも至っていない。

【学校評価アンケート】

職員「学校は家庭学習の習慣化や学習意欲を伸ばす工夫をしている」51.6%

生徒「毎日、家庭で学習をしている」19.6%

保護者「子どもは、予習・復習などの家庭学習を行っている」28.5%

→学習習慣の定着は進路目標の達成につながる。本校生徒の場合は、まず生活習慣の定着を図る必要がある。全職員による日常の生活指導を徹底する。

○キャリア教育（進路指導）

「進路意識の高揚」は一定の成果があった。2年生のインターンシップ、職業人講話（6回）校内企業説明会、進路別説明会（保護者参加13名）、卒業生講演会など、適切な時期に自分の進路について考える機会を設けることができた。ただし、生徒の理解はまだ十分ではなく継続指導が求められる。

【学校評価アンケート】

職員「進路に関する取組は生徒の進路意識を高めている」74.2%

生徒「進路講演会や説明会などは、進路を考えるよい機会になっている」62.3%

保護者「子どもは、進路講演会や説明会等への参加をとおして、積極的に進路を考えるようになった」69.4%

生徒「進路について不安や悩みがある場合は、先生に相談している」36.5%

→教職員が生徒一人一人の適性や進路希望を把握したうえで指導にあたる必要があり、そのために日頃の面談（担任、副担任、教科担任）の充実を図りたい。

「基礎学力の定着と思考力・表現力の育成」について、とくに夕学習会に課題がある。6限日課終了後、1・2年生は一般と発展コース、3年生は就職、進学一般、進学発展コースに分かれて学習するものだが、会議等で時間がとれなかったり、学習習慣が未定着の生徒の指導が難しかったりするなど課題が多かった。現在、来年度の学習会の在り方について検討している。

○生徒指導

「生活指導の充実」について、岱志五原則（時間の厳守、服装の厳正、けじめある生活態度、通学マナーの向上、さわやかな挨拶）を実行し、生活規律の遵守を目指した。職員全体で生活指導にあたることがなかなかできず、服装・頭髪指導では徹底した指導ができなかった。また遅刻指導、挨拶指導も今後の継続課題である。大きな事故は起こっていないが、通学マナーについては、自転車のながら運転や並走、バイクの蛇行運転やスピード超過など、外部から指摘されることが多かった。自分と他者の命を守ることの重要性について理解を深める取組を行っていく。

【学校評価アンケート】

職員「生徒は時間の厳守や身だしなみなど、学校のルールを守っている」15.2%

生徒「生活五原則を守り、岱志高生として自信と誇りをもって生活している」

68.8%

保護者「子どもは、学校のルールを守っている」86.2%

職員「本校生は交通ルールやマナーを遵守している」37.5%

生徒「交通ルールや交通マナーを守り、交通安全に努めている」89.1%

→学校のルールや交通マナーの遵守について、職員と生徒・保護者間の評価の差が大きい。職員が求める規律・規範と生徒のルールやマナーに関する理解の乖離を分析したうえで、効果的な指導を行っていききたい。

○人権教育の推進

「研修の充実及び系統立てた人権教育の実践」について、校外研修はほぼ全職員が参加した。荒尾市が教職員を対象にしたアンケートで、本校職員の人権に対する意識や法律に関する知

識がやや弱いことが分かり、校内研修で、現在までの法整備の推移や意義、「人権教育の指導方法等の在り方について[第3次とりまとめ]」を取り上げた。

職員「私は人権に対する知的理解の深化と人権感覚の高揚のため、関係研修会に積極的に参加している」72.8%

生徒「本校では、人権や命の大切さについて学ぶ機会が多い」76.8%

→人権尊重はあらゆる教育活動の核である。本校職員は、他校と比べても研修に参加する数は多いが、一方で基本的な知識が不足している面もある。校外研修への参加を一層勧めるとともに、職員が主体的に学ぶことができる校内研修を開発したい。また、人権学習の指導力向上を目指す。

○いじめの防止等

「いじめの未然防止（重大事態の再発防止）」を本年度における本校の最大の目標とした。本校から県に提出した「熊本県いじめ防止対策審議会答申を踏まえた学校の改善について」に基づき、①「いじめ防止基本方針」及び「いじめが背景に疑われる重大事態への対応マニュアル」の改訂、「いじめ問題への対応マニュアル」の策定 ②言語環境の整備 ③職員全員での見守りに取り組んだ。いじめ防止対策委員会が対象としたいじめの件数は少ないが、学校が見えていないだけかもしれない。また、SNS上のトラブルが増えている。言語環境の整備について、生徒が不適切な発言をした場合にはきちんと指導している。しかし、安易に不適切な発言をしてしまう場面もまだ多く見られ、継続した指導が必要である。また、職員が正しい言語を使用し、言語環境を整えることも大切である。

生徒「自分だけでなく、他の人も大切にすると雰囲気づくりをしている」84.6%

生徒「インターネットや携帯電話等を使って他人をおびやかすようなことはしていない」
89.6%

生徒「楽しく学校生活を送っている」82.3%

保護者「子どもは、いじめや差別を許さないという意識を持っている」91.9%

→生徒支援部、生徒指導部を中心として生徒が抱える課題について情報を収集している。また、その情報は職員で共有することができている。今後もアンテナを高く張って学校の安全・安心を維持したい。SNS上のトラブルは学校だけでは解決できない。家庭や関係機関との連携を一層強めていく。

○特別支援教育

本年度、生徒支援部（教育相談・人権教育・通級・特別支援教育）を設置し、特に①教室に入ることができない生徒への対応、②通級制度の確立、③情報の共有に取り組んだ。①については、生徒の学習権を保障する観点から、教室復帰を前提としたうえで、保護者・生徒の同意、病院受診、職員会議での承認を経たうえで、別室における学習を該当教科の履修と認めることとした。必ず3か月ごとに振り返りの場を設け、教室復帰に向けた取組ができているかを確認した。②については、準備期間がないままの導入であり、担当者が苦心しながら制度化した。本校の活動は、自分の得意・不得意や困り感を知り、自分で支援を言うことができるようになること（＝自立）を目的としている。現在2名の生徒が利用している。③については職員研修、学年会、運営委員会等で常に情報を出している。

職員「私は教育相談に積極的に取り組み、指導・支援に努めている」87.1%

生徒「先生方は、悩みや相談に親身になってこたえている」57.4%

保護者「職員は、生徒の悩みや相談に親身になってこたえている」67.1%

→校内研修は充実しており、職員の意識も高い。通級活動にも積極的に参加している。特別支援教育については、職員が担当者に頼る場面が多く、担当者に業務が集中している。そのため、職員全体のスキルアップが必要であると考えている。

また、日頃の担任（副担任）と生徒との面談が少ない。ちょっとした時間や場面を生かして生徒理解に努めていきたい。

○地域連携

「地域における防災拠点づくり（受援対応施設）」については、荒尾市総合防災訓練に職員・生徒が参加し、物品の搬入・保管・搬出の方法を確認するなどの活動ができた。地域の方が参加されるとさらに実践的な訓練になる。「荒尾市との共働により地域と学校の活性化」については、地域の行事や市主催のフォーラムに参加することができた。次年度以降も継続したい。また、岱志塾やダグラグビー教室では本校の特色を生かした地域貢献ができた。地域に信頼される、地域に開かれた学校づくりを目指したい。

○環境教育

「美化活動の充実」については、校外清掃活動を年3回実施した。生徒数の割には敷地が広く、普段の掃除が行き届いていない。また掃除の仕方が分からない生徒も一部いる。学校行事としての清掃活動も大切であるが、日々の掃除への取り組みをより重視したい。

「地球環境保全活動の推進」については、そもそも課題設定が大きすぎると考える。学校版環境ISOについてもその活動が見えなかった。省エネ・リサイクル・プラスチックゴミの削減など、生活の中で取り組むことができる目標設定を行いたい。

職員「学校は地域清掃活動により地域貢献を図っている。」	45.4%
職員「学校は環境ISO宣言項目の啓発・周知を図っている」	69.7%
生徒「日頃からゴミの減量や分別、節水、節電などに積極的に取り組み、エコ運動に心がけている」	67.8%
職員「学校では、全職員が生徒共に掃除に取り組み、校内美化の充実が図られている」	39.4%
生徒「掃除には一生懸命に取り組んでいる」	91.1%
保護者「学校は、校内の環境美化が行き届いている」	74.3%

→職員と生徒間で取り組みについて認識の差がある。(生活や交通ルールの遵守でも同じ傾向が見られた。) 職員が求めることと生徒の認識に差があること踏まえたうえで、日常の清掃指導を継続したい。

○生徒・保護者・教職員・地域が「岱志に来てよかった、岱志にやってよかった、岱志に勤めてよかった、そして岱志がここにあるよかった。」と思える学校を目指す

職員「本校での勤務は充実している」	87.9%	(30.3+57.6%)
生徒「本校に入学してよかった」	73.2%	(19.6+53.6%)
保護者「子どもを本校に入学させてよかった」	78.7%	(23.5+55.2%)

6 次年度への課題・改善方策

【次年度の目標】安心・安全な学校づくりと生徒確保に向けた取組

(1) いじめの未然防止

- ア 「熊本県いじめ防止対策審議会答申を踏まえた学校の改善について」に基づいた取組の振り返りと継続
- イ 面談(担任、副担任、教科担任など)及び教育相談の充実
- ウ SNS上のトラブルの早期発見及び関係機関(警察等)との連携

(2) 交通安全を含めた生活規律の遵守

- ア 基本的な生活習慣の定着に向けた指導体制の確立(=職員全体による指導)
- イ 交通指導の充実と徹底とバイク免許取得の考え方についての検討
- ウ 授業規律の遵守

(3) 学習習慣の定着と授業改善～進路希望の100%実現～

- ア 学習時間調査の分析と面談の充実
- イ 学校目標「学習規律を守りながら主体的に学習に取り組む態度を育成する」の継続
- ウ 公開授業・研究授業・授業評価・教科会を核とした授業改善PCDAサイクルの確立

(4) 普通科の在り方の検討と体育・美術工芸コースのさらなる躍進

- ア プロジェクトチームによる検討の推進
- イ 荒尾市との連携(荒尾市による岱志高校支援事業)
 - ・ワークショップの開催、中高連携事業、広報活動推進など
- ウ コースの特色を生かした地域貢献の充実
 - ・岱志塾(美術部・理科部)、タグラグビー教室など小中高が一緒に活動できる取組の充実